

住友金属工業㈱

小倉製鉄所

中里福和 ○福島秀一

総合技術研究所

福田 隆

住金テクノリサーチ㈱

小松英雄

I 緒言

長尺ボルトなどの冷鍛用部品の多くは、中炭素鋼を熱処理（焼なまし、焼入れ焼戻し）、曲り矯正して製造されている。しかし、コスト低減のために、これらの中間工程省略に対する潜在的要請が強い。本報では、焼入れおよび曲り矯正工程の省略を実現するため、延性・韌性の優れた低炭素系冷鍛用アシキュラーフェライト鋼の諸特性について調査した。

II 供試鋼および試験方法

供試鋼は低炭素系Mn Mo Nb鋼(Table 1, 鋼A)である。

Table 1 Chemical composition (wt%)

Steel	C	Si	Mn	P	S	Cr	Mo	Nb
A	0.05	0.25	1.72	0.015	0.011	0.07	0.33	added

125 mmの鋼片を16.3および18.0 mmφに線材圧延

した（加熱1250°C, 捲取850°C, 衝風冷却）。圧延ままおよび冷間伸線したコイルについて、各種温度で焼戻し後、ミクロ組織や機械的性質などを調べた。さらに長尺ボルトの実部品試作も実施した(Fig.1)。なお比較のためJIS-S45C、SCM435の調質材も試験に供した。

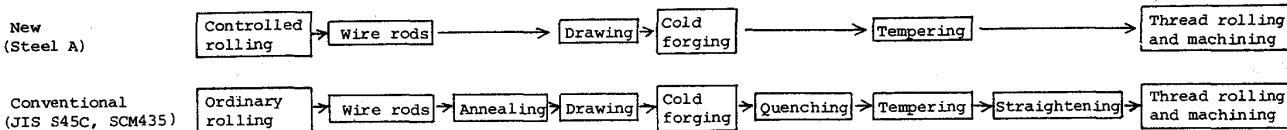
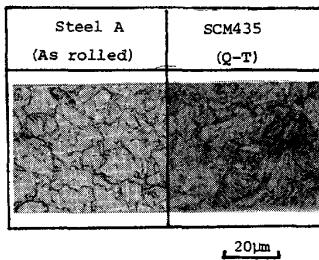


Fig. 1 Manufacturing process of fasteners

III 試験結果

1 鋼Aは圧延のままで

微細なアシキュラーフ
エライト組織となっ
ている。(Photo.1)



2 圧延ままの線材に対

し、冷間伸線および焼戻を施すことにより、延性
を損なうことなく高強度化(TS 90 kgf/mm²レベル)
が図れる。(Fig.2)

3 韌性についても、SCM435調質材と遜色の
ない値が得られている。(Table 2)4 長尺ボルト部品(270 mm長さ)の試作結果
(Fig. 3)においても、鋼Aは曲りが少なく
且つ引張強さのバラツキも小さい。

IV 結言

以上の如く、強度・延性・韌性バランスの良好な
高韌性焼入省略線材が得られた。焼入および曲り工
程省略が可能となり、従来は調質処理していた長尺
部品への適用が期待できる。

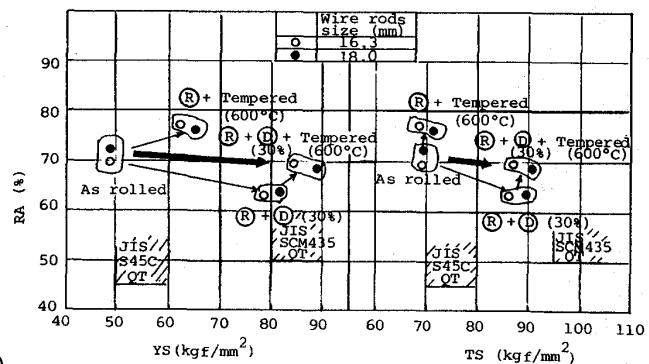


Fig. 2 Strength-ductility relationship obtained on various process stage

Table 2 Comparison in ductility and toughness between steel A and heat-treated steel (TS = 88 kgf/mm², 2 mmV-Charpy)

Steel	RA (%)	vE ₂₀ (kgf/mm²)
Steel A	69	15
Heat-treated steel		
S45C	65	5
SCM435	65	15

Steel	Deflection TIR (mm)			Tensile strength (kgf/mm²)		
	X	σ	X	σ	X	σ
Steel A	0.2	0.4	0.6	0.1	0.2	0.4
	70	80	90	0.5	1.0	1.5
S45C	As-cold forged	[]	[]	[]	[]	[]
	As-tempered	[]	[]	[]	[]	[]
S45C	As-cold forged	[]	[]	[]	[]	[]
	As-QT	[]	[]	[]	[]	[]

Fig. 3 Results of tensile test and deflection measurements on finished product